

典型的なイングランドサッカーを展開 守護神オヤジの偉大な力



<戦績>

1983~84

新人戦 7-0 須佐野

1-1 星和台

(PK3 - 1)

0-1 本山

市民大会 3-0 東神戸朝鮮

2-0 丸山

0-4 神戸FC·A

総体 0-3 竜ヶ台

選手権大会 0-1 神戸FC・A

1986~87

神戸市夏季リーグ 0-4 八代

0-1 御影

1-0 赤塚

入替 0-1 長田

(2部転落)

選手権大会 13-0 伊川谷北

3-1 村野工業

1-2 須磨東

トーナメント

0-3 八代

新人戦 0-2 甲北

神戸市春季リーグ 1-0 茸合

0-1 神戸FC

1-2 神戸朝鮮

2-0 星陵

総体 1-2 網干

<記事>

我々45期は、攻撃型というよりは守 備型のチームであったのは間違いな い。その中でも、G. K. オヤジの力は偉大で、トーナメント戦となると「引き分けは勝ち」といった変な自信があったのでよく終了間際の失点による惜敗を喫した。

戦績をみると華々しいチームではないが、決して弱いチームではなかった。 我々が高1~2の期間には、44期の 方々への貢献度は並々ならぬものがあったと思われるし、いや、あったと断 定してもいい。また、御影、赤塚等、 他校には対戦相手として嫌がられるチームであったことは事実である。

特に、堅実で強固な守備陣と、林原、 伊部を中心とした攻撃陣は、今思うと かなり渋さのある連中がそろっていた と思う。また、メンバーの大半が、練習のない日にも、校内放送で注意されるまでボールを蹴ったりと、無意識のうちではあるがサッカーを心から楽しんでいた。実際の練習、試合中はとてもそうはいえなかったが……。しかし、6年間のサッカー生活は未だに心に残るすばらしい時間であったと思う。

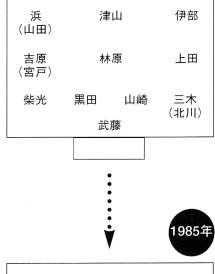
<メンバー紹介>

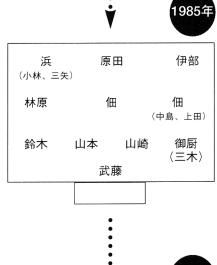
- ・三木(三木さん DF):45期の主 将兼マネージャー。責任感の強さから 皆の人望厚かったが、一方でその充実 した下半身から「プリケツ三木」の異 名をとっていた。
- ・山崎(山さん DF):沈着冷静な プレーは高く評価されていた。チーム の雰囲気を明るくしていた貢献度も高 い。又、チェックペンで数学を制する という技をもっていた。
- ・上田(ウマ DF):45期随一のお調子もんだが、そのあまりにもねばっこくてやらしいディフェンスは定評があった。手首もしつこく二度も折った。・笠井(笠井さん DF):全身の約8割が足であるこの男の場合、身長の低いセンターフォワードは天敵。よく股の間をサクッとすり抜けられていた。
- ・稲葉(イナッツォ DF): 一見、 真面目そうで入部当社は佃先生にベタ ほめされるも、だんだん化けの皮がは がれ教師陣の信頼を見事に裏切った。
- ・永瀬(ニヘ DF):派手さはないが、非常にねばっこく相手をマークすることで有名。「すっぽん永瀬」(?)として神戸でならしていた。
- ・林原 (ドヤシ MF):言わずと知れた45期のゲームメーカー。ノソノソ動いているように見えても、技術・センスは光るものがあったし、スタミナも45期で一番だった。
- ・津山(ツーヤン MF):ぱっと見はかなりのつっぱりで佃先生から何度もどつかれたが実は案外真面目で小心者。しかし、チームをよくひっぱってくれた。
- ・北村(北村さん MF):マイペースで気まぐれだった彼は、決してサッカーに没入することはなかったが、一

応サッカー部には最後まで残った。

- ・森本 (モッさん MF) :足のケガ にないて、練習にはほとんど出ていな かったにもかかわらず、(体育の授業 で) 時折みせるドリブルには光るもの があった。
- ・伊部(デューダ FW):右45度からの右足のシュートは天下一品だが、 左足のキック力は幼稚園児並み。尚、 試合開始20分でへばるのも彼の特技。
- ・浜 (ハマンティ FW) :50 m 走らすとバカみたいに速いのに、ドリブルさせるとなぜあんなに遅くなるのか? 典型的単純動作しかできない人間である。
- ・吉原(ヨッシン FW):45期いちの遊び人。佃先生とも大の仲良しで殴られた回数は一、二、を争う。ゴール前で倒れた敵の選手の頭をわざと蹴るということもした。
- ・山田(コケ FW):小さな体をいかしたドリブルで、グランドをチョコマカ駆け回っていた。そんな彼も大学に入り、身長が急に伸び周囲を驚かせた。
- ・武藤(オヤジ GK):45期の大黒柱、精神的支えであった。言わずと知れたマッチョマン。さすがの佃先生も彼はどつけなかった。スーパープレイヤーであった。









1986年